



IDF PRESS RELEASE

Brussels, 18th January 2018

IDFプレスリリース

2018年1月18日、ブリュッセル発

持続可能な食事における乳の役割

IDFシンポジウムで持続可能な生乳生産を討議する

Sustainable production of milk-1

2018年2月1日－2日、「持続可能な食事における乳の役割」シンポジウムにおいて、非常に尊敬された専門家が、乳の環境的影響と社会経済的影響とともに消費者が乳をどのように受け止めているかについて討議する予定である。

消費者は、自分が口にする食品の起源に関心を深め、食品生産者、加工業者それに小売業者から、その食品が責任をもって生産されているかの保証を求めている。その結果、持続可能な調達評価システムの創設、監視プログラムまたは既に存在する酪農乳業プログラムの承認を通じて、食品の小売業者はそのような保証を消費者に提供する方法を模索している。米国では全ての農場のほぼ98%が全米酪農FARM (Farmers Assuring Responsible Management 管理責任保証農家) プログラムに加盟している。FARMは改善は継続なりの精神のもと、家畜の飼養、抗生剤の使用および環境的持続可能性について最高のスタンダード(規格)を設定している。このFARMプログラムは近年、アニマルウェルフェア関連ISO技術仕様書に準拠したとの認定を受けた。このことは、このプログラムが家畜のアニマルウェルフェアと健康に関する最高水準の国際スタンダード(規格)に合致した証しとなった。

全米生乳生産者連盟のエミリー・メレディス Emily Meredith氏は、「家畜の健康とアニマルウェルフェアに対する受けが変わる」と題するプレゼンテーションにおいて、FARMプログラム、顧客および利害関係者の協力が進化していること、このプログラムが消費者の要望を満たし、新しい課題に対処するためにどのように適応と変化を続けているかの議論を投げかける予定である。

「酪農乳業が将来に渡って成功を納めるかどうかは生乳が持続可能な方法で責任を果たしながらどのように生産するかを物語る能力にかかっている。米国におけるFARM計画のような産業計画は生産者のスタンダード（規格）を設定し、乳業者や消費者と関連付けながら持続可能性を物語る手助けとなる。」とエミリー・メレディス氏は語った。

デーリーチェーンにおいては、生乳生産は独特の立ち位置を築いている。一方で、数億の人々に生計を提供し、また多くの人々に生存に不可欠な役割がある。他方では、投入された資源やコストへの寄与率が大きく、デーリーチェーン由来の非燃料系温室効果ガス排出の大部を占める。

I F C N酪農研究ネットワークのトルステン・ヘムメ Torsten Hemme 氏の「社会経済的な指標に基づく酪農生産者の持続可能性」と題したプレゼンテーションでは、酪農場の持続可能性の様々な側面を分析し比較する可能性が示される予定である。さらに、I F C Nは、酪農経営の復元力を測定する新しいコンセプトを開発した。この手法では乳価の価格変動の有意性が引き出される。

当シンポジウムのプログラムは <https://www.fil-idf.org/idfevent2018/>を参照ください。

完

翻訳：J I D F事務局

編者注: 仮訳の正確性、完全性、有用性等についてはいかなる保証をするものではありません。参考資料として扱い、内容に疑義が生じた場合は英文の原文をご確認ください。